

あゝ、斯う書いて来るだけでも、訓練々々、また訓練。する方でも気が疲れるし、される方では尙ほ更うんざりのこゝに聞へる。しかし、訓練よりも大事なこゝは、幼児の生活の活きくゝ、こゝ行はれてゆくこゝである。訓練、殊に大人の小やかましい訓練癖で、子ぎもの生活の勢をそい

誘導保育案

小石川區から三人、世田谷區から一人、本郷區から二人云ふ工合に、丸で知らない同志が、お馴染の無い幼稚園に、初めて見る先生の組になると言つた様の、特殊な制度のこゝの幼稚園では、子供ミ先生、子供ミ幼稚園、更には子供相互が親しみ馴れ合ふまでには、かなりの日数がかかる。誘導保育案を実施するには、個人指導、分團指導と言つた分子が多分にあるので、ポツンミ立ちん坊をしてる人が所所にあつたり、自己統制の無い時代の馴れ合ひの常として、直ぐに引つ掻き合ひが起つて来るミ云ふ状態だつたり、又切紙、自由畫等の簡單な保育項目をさせて置くにしても、そ

で仕舞つてはならない。「いつミなく、いつのまにか、それだて、いつも、「たえず」、これが訓練の秘訣であらう。況んや、口やかましくするばかりが先生の能ではない。その極意には、皆さんが充分訓練されていらつしやるでせう。

れが各々自分で出し入れが出来ない様な状態では、なかなかこの案を実施出来るミ云ふミころまでは行かない。

それが暫くの間でも砂場、積木等にて穩かに遊ぶ様になり、又訓れ易い女兒等手を取り合つて遊べる様になり、又自由畫等をするために、大人の手傳無しに帳面やクレヨン出し入れが出来る様になるまでには、少くも二ヶ月位はかゝるミ思ふ。こんな事情が、「系統的保育案の實際」の年少組第一學期初めに、誘導保育案の立案せられない理由なのである。

兎も角も、入園第一學期は、やがて来る構成への準備をし

て材料征服時代を見ていゝ。各種材料、例へば模造紙、クレヨン、粘土、チョーク、その他の何でもをふんだんにいじらせるがよい。たゞいじらせる、と言ふ事だけを目的としてはいゝと思ふ。その中には、たゞそれだけでは飽き足りないミ云ふ子供も出来て来るかも知れない。そしたら、それは個人ミしてのまごまりへ指導して行くミか、又大勢で一つ

唱歌 遊戯

第一週

遊戯 四回

一回目

案内(最初の導き)

やつミ附添から離れた子供をみんな連れて幼稚園の各室へ案内する。豫め年長組の先生にお願ひして、遊戯室では遊戯をしてゐる所を見せてもらふ。泣いてゐた子も泣き止んで珍らしさうに眺めてゐる。

二回目

の大きな場面をして、紙なり、ボードなりへまごめて見るミか、そんな好い機會がちよいと出て来るに違ひない。こんな機會は逃さずに捉へて、極く初歩の協同への導き入れをする事を心に期するがよいと思ふ。あの年少組、初めの誘導保育案欄の空欄には、こんな心持が含まれて居る。

初めの頃は、一人の先生だけでピアノを弾いたり、指導もしたりミ云ふ様な事は出来ないから、ピアノの方は年長組の先生にお願ひして、又年長組の子供と一緒にしてもらふ様に打合せて置く。

遊戯室から年長組のピアノの音が聞えて来た折を見計らつて、遊戯室に行く。その時には、小さい子供にでもすぐ出来る様なやさしいものを選んでしてもらふ。

蝶々

曲(進行曲粹 No. 37)